

第3小委員会

数 学

報 告 書

令和2年7月22日

第12地区教科書採択教育委員会協議会長 程 野 仁 様

第12地区教科書採択調査委員会第3小委員会委員長 野 村 勉

先に諮問のあった令和3年度から使用する中学校用教科用図書について、数学の教科書見本本の調査研究結果を次のとおり報告します。

記

1 調査研究の経過

第1回調査委員会（6月29日）

- (1) 配付された7者の教科書について、調査研究の観点や手順を協議した。
- (2) 各者の教科書を調査研究し、次回の選定委員会での検討資料とすることを確認した。

第2回調査委員会（7月9日）

- (1) 調査研究の観点や手順に基づいて作成した調査研究資料について協議した。
- (2) 報告書作成のための準備を行い、次回の調査委員会での協議内容を確認した。

第3回調査委員会（7月16日）

- (1) 作成してきた報告書について、作成の趣旨に基づき協議した。
- (2) 配付された7者の教科書について、報告書を作成した。

2 調査研究の方法

発行者から送付された教科書見本本について、以下の調査研究の観点に基づき、「教科書編集趣意書」及び北海道教育委員会が作成する「採択参考資料」を参考として行った。

ア 「取扱内容」について

- ・学習指導要領の総則及び各教科の目標、内容及び学年・分野・領域等の目標、内容等に基づいて、正確、適切に取り上げられているか。

イ 「内容の構成・排列・分量等」について

- ・内容の構成が、地域の実態や生徒の生活経験及び興味・関心などに配慮されているか。
- ・内容の排列が、学年の発達段階に応じて、体系的、発展的に組織されているか。
- ・内容の分量が、各分野や領域ごとに適切におさえられているか。

ウ 「使用上の配慮等」について

- ・生徒の学習意欲を高める工夫がなされているか。
- ・自ら課題解決に取り組み、主体的に学習に取り組めるよう工夫されているか。
- ・目次、索引、注、諸表など、使用上の便宜は配慮されているか。

3 見本本の総合所見

(1) 東京書籍 「新しい数学」

- ・「主体的・対話的で深い学び」の実現に資する学習への対応では、文字式の利用の学習において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、本棚を作るのに必要な棒の本数について考え、図や式の活用について話し合い、考えを広めたり深めたりする学習活動（第1学年）が取り上げられている。
- ・「使用上の配慮等」では、論理的な思考力を伸ばす「数学的活動（Q）」や、生徒の疑問を引き出して学習への動機付けをする「章とびら」を掲載するなど、主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。

(2) 大日本図書 「数学の世界」

- ・「主体的・対話的で深い学び」の実現に資する学習への対応では、平行と合同の学習において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、星形の図形の角の和を求める方法について考え、多角形の性質を利用する考え方について話し合い、考えを広げたり深めたりする学習活動（第2学年）が取り上げられている。
- ・「使用上の配慮等」では、生徒自らが問題や疑問を見いだすことができるよう「考えよう」を掲載したり、数学と社会とのつながりが実感できる「MATH FULL」を掲載したりするなど、生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。

(3) 学校図書 「中学校数学」

- ・「主体的・対話的で深い学び」の実現に資する学習への対応では、いろいろな確率の学習において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、くじを引く順番と当たりやすさについて、条件を変えて考えた結果について話し合い、考えを広げたり深めたりする学習活動（第2学年）を取り上げられている。
- ・「使用上の配慮等」では、章の学習の最後に「できるようになったこと」や「さらに学んでみたいこと」を記入できるようにしたり、本文中の「おしえて！」に学習の中で感じる疑問を取り上げたりするなど、生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。

(4) 教育出版 「中学数学」

- ・「主体的・対話的で深い学び」の実現に資する学習への対応では、1次関数の活用において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、印刷枚数と印刷料金の関係について考え、1次関数のグラフについて話し合い、考えを広めたり深めたりする学習活動（第2学年）が取り上げられている。
- ・「使用上の配慮等」では、既習事項で定着していない内容を前ページで確認できる「もどって確認」や、「章のとびら」の中で、社会や生活、先端テクノロジーなどに関する話題を掲載するなど、主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。

(5) 啓林館 「未来へ広がる数学」

- ・「主体的・対話的で深い学び」の実現に資する学習への対応では、三平方の定理の利用の学習において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、富士山の頂上から見渡せる範囲について考え、範囲を求めるために必要なことについて話し合い、考えを広めたり深めたりする学習活動（第3学年）が取り上

げられている。

- ・「使用上の配慮等」では、「学習のとびら」や「利用の節」などで、学習内容に関連する身の回りの題材を取り上げたり、「自分から学ぼう編」を裏表紙から始まる縦開きの構成にして課題の存在を分かりやすく伝えたりするなど、生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。

(6) 数研出版 「日々の学びに数学的な見方・考え方をはたらかせる これからの数学」

- ・「主体的・対話的で深い学び」の実現に資する学習への対応では、文字を使った式の学習において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、マグネットの個数を求める式について考え、操作や図を使った解き方について話し合い、考えを広めたり深めたりする学習活動(第1学年)が取り上げられている。
- ・「使用上の配慮等」では、本冊の内容を深め、学びを発展させる分冊や、新たな学習事項と既習事項とのつながり、共通点や違いを掲載するなど、主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。

(7) 日本文教出版 「中学数学」

- ・「主体的・対話的で深い学び」の実現に資する学習への対応では、くじの当たりやすさの学習において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、くじを引く順番と当たりやすさについて考え、樹形図を使った解き方について話し合い、考えを広めたり深めたりする学習活動(第2学年)が取り上げられている。
- ・「使用上の配慮等」では、巻頭に「数学的な見方・考え方を身につけよう！」や、巻末に自分の考えを書き、互いの考えを伝え合うための「対話シート」を掲載するなど、主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。

別紙様式1

番号 観点	発行者の番号・略称	使用学年	教科書の記号・番号	教科書名
	2・東書	第1学年 第2学年 第3学年	数学・701 数学・801 数学・901	新しい数学1 新しい数学2 新しい数学3
取扱内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 数と式については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 <ul style="list-style-type: none"> ・つり合っている天秤に重さが分からぬおもりと1個1gのおもりがのっているとき、おもり1個分の重さを求める操作的な活動（第1学年）、未知の二つの数量をx, yとしてりんごとオレンジの値段を求める方程式を立てて解く活動（第2学年）など ○ 図形については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 <ul style="list-style-type: none"> ・合同な三角形を敷き詰めて描かれた模様から2つの三角形に着目して移動の意味を考える学習活動（第1学年）、直接測定することが困難な池をはさんだ2点間の距離を、2点間を見通せる地点を決め縮図を使って求める学習活動（第3学年）など ○ 関数については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 <ul style="list-style-type: none"> ・水を熱し始めてからの時間と温度の関係をグラフで調べ、一次関数として捉えられる二つの数量の変化や対応の特徴を見いだす学習活動（第2学年）、斜面を転がる球の転がり始めてからの時間と転がった距離の関係を表、式で調べ、関数 $y=ax^2$ として捉えられる二つの数量の変化や対応の特徴を見いだす学習活動（第3学年）など ○ 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、次のような学習活動が取り上げられている。 <ul style="list-style-type: none"> ・文字式の利用の学習において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、<u>本棚を作るのに必要な棒の本数について考え、図や式の活用について話し合い、考えを広めたり深めたりする学習活動（第1学年）</u>など 			
内容の構成・排列	<ul style="list-style-type: none"> ○ 内容の構成・排列については、次のような工夫がなされている。 <ul style="list-style-type: none"> ・図形の様々な移動に着目し、二つの図形の関係について理解する学習の後に、基本的な作図の方法を考察し、表現する問題を扱うなど、系統的・発展的に学習できるような工夫（第1学年） ・乗法公式を使って平方根を含む式を計算する学習の後に、平方根の考えを基にして、二次方程式を解く方法を考察し表現する問題を扱うなど、系統的・発展的に学習できるような工夫（第3学年） ○ 内容の分量については、次のようになっている。 <ul style="list-style-type: none"> ・第2学年 総ページ数 247ページ、前回より約7%増 			
使用上の配慮等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 内容のまとめごとに問題解決の過程を振り返る「学びをふり返ろう」を掲載したり、「学びをひろげよう」において、数学と実社会や職業とのつながりを伝えたりするなど、生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。 ○ <u>論理的な思考力を伸ばす「数学的活動（Q）」や、生徒の疑問を引き出して学習への動機付けをする「章とびら」</u>を掲載するなど、主体的に学習に取り組むことができるよう工夫がなされている。 ○ 「数学マイノート」でノートの使い方を示したり、全ての生徒が学習しやすいよう、ユニバーサルデザインにしたりするとともに、1人1台端末を活用した学習活動として、「Dマーク」（QRコード）を掲載するなど、使用上の便宜が図られている。 			
その他	<ul style="list-style-type: none"> ○ 北海道の素材を第1学年4箇所、第3学年2箇所で取り扱っている。 ○ 学習者用デジタル教科書の発行が予定されている。 ○ 発展的な学習内容を第3学年で6ページ、第2学年で4ページ取り扱っている。 			

別紙様式1

番号 観点	発行者の番号・略称	使用学年	教科書の記号・番号	教科書名
	4・大日本	第1学年 第2学年 第3学年	数学・702 数学・802 数学・902	数学の世界1年 数学の世界2年 数学の世界3年
取扱内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 数と式については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 <ul style="list-style-type: none"> ・未知の二つの数量を x, y として写真と封筒の重さを求める方程式を一元一次方程式に帰着させて考える学習活動（第2学年）、<u>数当てゲーム</u>の計算の手順から方程式をつくり、いろいろな数を代入し、等式を成り立たせる文字の値を調べる活動（第3学年）など ○ 図形については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 <ul style="list-style-type: none"> ・日本の伝統的な模様「麻の葉」を観察し合同な図形を重ねる動かし方を考える活動（第1学年）、遊園地にある乗り物の動きから平行四辺形になるための条件を考える活動（第2学年）など ○ 関数については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 <ul style="list-style-type: none"> ・等速で走っている選手の走った時間と進んだ距離の関係を表、式、グラフで調べる学習活動（第1学年）、5cmの高さまで水が入った容器に水を入れた時間と水位の関係を表で調べ、一次関数として捉えられる二つの数量の変化や対応の特徴を見いだし、考察し表現する学習活動（第2学年）など ○ 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、次のような学習活動が取り上げられている。 <ul style="list-style-type: none"> ・平行と合同の学習において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、<u>星形の図形の角の和を求める方法</u>について考え、多角形の性質を利用する考え方について話し合い、考え方を広げたり深めたりする学習活動（第2学年）など 			
内容の構成・排列	<ul style="list-style-type: none"> ○ 内容の構成・排列については、次のような工夫がなされている。 <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な作図の方法を理解する学習の後に、図形の様々な移動に着目し、二つの図形の関係について考察し表現する問題を扱うなど、系統的・発展的に学習できるような工夫（第1学年） ・乗法公式を使って平方根を含む式を計算する学習の後に、因数分解の考え方を基にして、二次方程式を解く方法を考察し表現する問題を扱うなど、系統的・発展的に学習できるような工夫（第3学年） ○ 内容の分量については、次のようになっている。 <ul style="list-style-type: none"> ・第3学年 総ページ数 293ページ、前回より約3%減 			
使用上の配慮等	<ul style="list-style-type: none"> ○ <u>生徒自らが問題や疑問を見いだすことができるよう「考えよう」を掲載したり、数学と社会とのつながりが実感できる「MATHFUL」を掲載したりするなど、生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。</u> ○ 卷頭における数学の学習の進め方についての説明や、数学的に利用することを重視し、問題発見・問題解決の流れを示した活動を掲載するなど、主体的に学習に取り組むことができるよう工夫がなされている。 ○ 領域ごとに色を設定したり、すべての生徒が学習しやすいよう、ユニバーサルデザインにしたりするとともに、1人1台端末を活用した学習活動として、「WEBマーク」（QRコード）を掲載するなど、使用上の便宜が図られている。 			
その他	<ul style="list-style-type: none"> ○ 北海道の素材を第1学年7箇所、第2学年2箇所、第3学年4箇所で取り扱っている。 ○ 学習者用デジタル教科書の発行が予定されている。 ○ 発展的な学習内容を第3学年で14ページ、第2学年で4ページ取り扱っている。 			

別紙様式1

番号 観点	発行者の番号・略称	使用学年	教科書の記号・番号	教科書名
	11・学図	第1学年 第2学年 第3学年	数学・703 数学・803 数学・903	中学校数学1 中学校数学2 中学校数学3
取扱内容		<ul style="list-style-type: none"> ○ 数と式については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 <ul style="list-style-type: none"> ・つり合っている天秤にクリップと1円玉がのっているとき、クリップの重さを求める操作的な学習活動（第1学年）、敷き詰める枚数が決まっている太陽電池の縦と横に並べた枚数の関係を表した方程式を立て、解を考える学習活動（第3学年）など ○ 図形については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 <ul style="list-style-type: none"> ・日本の伝統的な模様「麻の葉」を観察し合同な図形を重ねる動かし方を考える学習活動（第1学年）、公園の遊具を平面図形に置き換えて考え、基本的な平面図形の性質を見いだす学習活動（第2学年）など ○ 関数については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 <ul style="list-style-type: none"> ・視力検査に用いるランドルト環の直径と視力などの関係を、比例、反比例を用いて具体的な事象を捉える学習活動（第1学年）、スキージャンパーの滑り降りた時間と距離の関係を、関数 $y=ax^2$ として捉えられる二つの数量の変化や対応の特徴を見いだす学習活動（第3学年）など ○ 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、次のような学習活動が取り上げられている。 <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな確率の学習において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、くじを引く順番と当たりやすさについて考え、条件を変えて考えた結果について話し合い、考えを広げたり深めたりする学習活動（第2学年）など 		
内容の構成・排列 分量等		<ul style="list-style-type: none"> ○ 内容の構成・排列については、次のような工夫がなされている。 <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な作図の方法を理解する学習の後に、図形の様々な移動に着目し、二つの図形の関係について考察し表現する問題を扱うなど、系統的・発展的に学習できるような工夫（第1学年） ・根拠となることからをもとに三角形の合同条件を使って証明の方法について理解する学習の後に、逆や反例を使って表現する問題を扱うなど、系統的・発展的に学習できるような工夫（第2学年） ○ 内容の分量については、次のようになっている。 <ul style="list-style-type: none"> ・第2学年 総ページ数 255ページ、前回より約7%増 		
使用上の配慮等		<ul style="list-style-type: none"> ○ 章の学習の最後に「できるようになったこと」や「さらに学んでみたいこと」を記入できるようにしたり、本文中の「おしえて！」に学習の中で感じる疑問を取り上げたりするなど、生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。 ○ 自然に出される疑問を提示した「次の課題へ！」や、課題を発見し、自分で学習を進めることができるようにする「！見方・考え方」を掲載するなど、主体的に学習に取り組むことができるようない工夫がなされている。 ○ 卷頭に教科書を使った数学の学び方を掲載したり、全ての生徒が学習しやすいよう、ユニバーサルデザインにしたりするとともに、1人1台端末を活用した学習活動として、QRコードを掲載するなど、使用上の便宜が図られている。 		
その他		<ul style="list-style-type: none"> ○ 北海道の素材を第1学年10箇所、第2学年6箇所、第3学年5箇所で取り扱っている。 ○ 学習者用デジタル教科書の発行が予定されている。 ○ 発展的な学習内容を第3学年で13ページ、第2学年で9ページ取り扱っている。 		

別紙様式1

番号 観点	発行者の番号・略称	使用学年	教科書の記号・番号	教科書名
	17・教出	第1学年 第2学年 第3学年	数学・704 数学・804 数学・904	中学数学 1 中学数学 2 中学数学 3
取扱内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 数と式については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 <ul style="list-style-type: none"> ・つり合っている天秤に段ボールとおもりがのっているとき、段ボールの重さを求める操作的な活動（第1学年）、未知の二つの数量を x、y としてバスケットボールの2点シュートと3点シュートの本数を一元一次方程式に帰着させて考える学習活動（第2学年）など ○ 図形については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 <ul style="list-style-type: none"> ・合同な図形を敷き詰めて描かれた模様から2つの図形に着目して移動の意味を考える学習活動（第1学年）、遊園地にある乗り物の動きを平面図形に置き換えて考え、平行四辺形になるための条件を使って仕組みを考察する学習活動（第2学年）など ○ 関数については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 <ul style="list-style-type: none"> ・水が入っているプールに水を入れ始めてからの時間と水面の高さの関係を式で調べる学習活動（第2学年）、斜面を転がるボールの転がり始めてからの時間と転がった距離の関係を表、式で調べる活動を通して、関数 $y=ax^2$ として捉えられる二つの数量の変化や対応の特徴を見いだし、考察し表現する学習活動（第3学年）など ○ 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、次のような学習活動が取り上げられている。 <ul style="list-style-type: none"> ・1次関数の活用において、<u>学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、印刷枚数と印刷料金の関係について考え、グラフについて話し合い、考えを広げたり深めたりする学習活動</u>（第2学年） 			
内容の構成・排列	<ul style="list-style-type: none"> ○ 内容の構成・排列については、次のような工夫がなされている。 <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な作図の方法を理解する学習活動の後に、図形の移動に着目し、二つの図形の関係について考察し表現する問題を扱うなど、系統的・発展的に学習できるような工夫（第1学年） ・乗法公式を使って平方根を含む式を計算する学習の後に、因数分解の考え方を基にして、二次方程式を解く方法を考察し表現する問題を扱うなど、系統的・発展的に学習できるような工夫（第3学年） ○ 内容の分量については、次のようになっている。 <ul style="list-style-type: none"> ・第2学年 総ページ数 270 ページ、前回より約9%増 			
使用上の配慮等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 章の導入問題「Let's Try」で日常の事象から数学的活動を始められるようになり、「数学の広場」で生徒の学習を深め広げるための話題を取り上げたりするなど、生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。 ○ <u>既習事項で定着していない内容を前ページで確認できる「もどって確認」や、「章のとびら」の中で、社会や生活、先端テクノロジーなどに関する話題を掲載するなど、主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。</u> ○ ノートの書き方を例示したり、全ての生徒が学習しやすいよう、ユニバーサルデザインにしたりするとともに、1人1台端末を活用した学習活動として、「まなびリンク」（QRコード）を掲載するなど、使用上の便宜が図られている。 			
その他	<ul style="list-style-type: none"> ○ 北海道の素材を第1学年11箇所、第2学年14箇所、第3学年6箇所で取り扱っている。 ○ 学習者用デジタル教科書の発行が予定されている。 ○ 発展的な学習内容を第3学年で16ページ、第1学年で6ページ取り扱っている。 			

別紙様式1

番号	発行者の番号・略称	使用学年	教科書の記号・番号	教科書名
観点	61・啓林館	第1学年 第2学年 第3学年	数学・705 数学・805 数学・905	未来へ広がる数学1 未来へ広がる数学2 未来へ広がる数学3
取扱内容		<ul style="list-style-type: none"> ○ 数と式については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 <ul style="list-style-type: none"> ・未知の二つの数量を x, y として、鉛筆とノートの値段を求める方程式を一元一次方程式に帰着させて考える活動（第2学年）、カレンダーを見て、ある日の真上の数と真下の数の積の関係を表した二次方程式を立て、解を考える活動（第3学年）など ○ 図形については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 <ul style="list-style-type: none"> ・折り紙を折り、はさみを入れて作った矢印の形を観察し合同な図形を重ねる動かし方を考える活動（第1学年）、折りたたみ式テーブルを平面図形に置き換え、基本的な図形の性質を使って仕組みを考察する活動（第2学年）など ○ 関数については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 <ul style="list-style-type: none"> ・日にちとダムの貯水量の関係を表、式、グラフで調べる活動を通して、一次関数として捉えられる二つの数量の変化や対応の特徴を見いだす学習活動（第2学年）、ある自動車の速さと制動距離の関係を表、式、グラフで調べる活動を通して、関数 $y=ax^2$ として捉えられる二つの数量の変化や対応の特徴を見いだす学習活動（第3学年）など ○ 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、次のような学習活動が取り上げられている。 <ul style="list-style-type: none"> ・三平方の定理の利用の学習において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、富士山の頂上から見渡せる範囲について考え、範囲を求めるために必要なことについて話し合い、考えを広げたり深めたりする学習活動（第3学年）など 		
内容の構成・排列		<ul style="list-style-type: none"> ○ 内容の構成・排列については、次のような工夫がなされている。 <ul style="list-style-type: none"> ・図形の移動に着目し、二つの図形の関係について理解する学習の後に、基本的な作図の方法を考察し、表現する問題を扱うなど、系統的・発展的に学習できるような工夫（第1学年） ・乗法公式を使って平方根を含む式を計算する学習の後に、平方根の考え方を基にして、二次方程式を解く方法を考察し表現する問題を扱うなど、系統的・発展的に学習できるような工夫（第3学年） ○ 内容の分量については、次のようになっている。 <ul style="list-style-type: none"> ・第3学年 総ページ数 315 ページ、前回より約 6 % 減 		
使用上の配慮等		<ul style="list-style-type: none"> ○ 「学習のとびら」や「利用の節」などで、学習内容に関連する身の周りの題材を取り上げたり、<u>「自分から学ぼう編」</u>を裏表紙から始まる縦開きの構成にして課題の存在を分かりやすく伝えたりするなど、<u>生徒の学習意欲を高める工夫がなされている</u>。 ○ 目的意識をもって学習に取り組めるように設けた「小見出し」や、考え方のポイントを示唆するキャラクターを掲載するなど、主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。 ○ 教科書を必修部分とオプション部分の2部構成としたり、全ての生徒が学習しやすいよう、ユニバーサルデザインにしたりするとともに、1人1人台端末を活用した学習活動として、QRコードを掲載するなど、使用上の便宜が図られている。 		
その他		<ul style="list-style-type: none"> ○ 北海道の素材を第1学年7箇所、第2学年1箇所、第3学年1箇所で取り扱っている。 ○ 学習者用デジタル教科書の発行が予定されている。 ○ 発展的な学習内容を第3学年で10ページ、第2学年で4ページ取り扱っている。 		

別紙様式1

番号	発行者の番号・略称	使用学年	教科書の記号・番号	教科書名
観点	104・教研	第1学年 第2学年 第3学年	数学・706 数学・707 数学・806 数学・807 数学・906 数学・907	日々の学びに数学的な見方・考え方をはたらかせる これからの 数学1 見方・考え方をはたらき、問題解決のチカラが高まる これからの 数学1 探究ノート 日々の学びに数学的な見方・考え方をはたらかせる これからの 数学2 見方・考え方をはたらき、問題解決のチカラが高まる これからの 数学2 探究ノート 日々の学びに数学的な見方・考え方をはたらかせる これからの 数学3 見方・考え方をはたらき、問題解決のチカラが高まる これからの 数学3 探究ノート
取扱内容				<ul style="list-style-type: none"> ○ 数と式については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 <ul style="list-style-type: none"> ・未知の二つの数量を x, y として、ベルマークの枚数を求める方程式を一元一次方程式に帰着させて考える活動（第2学年）、周の長さが決まっている長方形の面積と辺の長さの関係を表した方程式を立てて、いろいろな数を代入して調べる活動（第3学年）など ○ 図形については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 <ul style="list-style-type: none"> ・<u>2段重ねの工具箱のアームの取り付け方から四角形などの基本的な平面図形の性質を見いだす活動（第2学年）</u>、直接測定することが困難な木の高さを、直接測定できる影の長さや棒の影の長さなどを使って求める活動（第3学年）など ○ 関数については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 <ul style="list-style-type: none"> ・碁石と将棋の駒のつかみ取った数と重さの関係を表、式、グラフなどで調べる活動を通して、比例、反比例を用いて具体的な事象を捉える学習活動（第1学年）、水のように水を入れた時間と水位の関係を表、式、グラフなどで調べる活動を通して、一次関数として捉えられる二つの数量の変化や対応の特徴を見いだす学習活動（第2学年）など ○ 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、次のような学習活動が取り上げられている。 <ul style="list-style-type: none"> ・文字を使った式の学習において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、マグネットの個数を求める式について考え、操作や図を使った解き方にについて話し合い、考えを広げたり深めたりする学習活動（第1学年）
内容の構成・排列				<ul style="list-style-type: none"> ○ 内容の構成・排列については、次のような工夫がなされている。 <ul style="list-style-type: none"> ・直角三角形の合同になるための条件と直角三角形の合同の利用について学習の後に、ことがらの逆や反例を使って表現する問題を扱うなど、系統的・発展的に学習できるような工夫（第2学年） ・乗法公式を使って平方根を含む式を計算する学習の後に、因数分解の考えを基にして、二次方程式を解く方法を考察し表現する問題を扱うなど、系統的・発展的に学習できるような工夫（第3学年） ○ 内容の分量については、次のようになっている。 <ul style="list-style-type: none"> ・第2学年 総ページ数 296 ページ、前回より約 32% 増（探究ノート含む）
使用上の配慮等				<ul style="list-style-type: none"> ○ 学んだ内容を活用して解決する「TRY」を設けたり、数学を学びながら福祉・資源・地球環境などの諸問題に自然な形で触れたりするなど、生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。 ○ <u>本冊の内容を深め、学びを発展させる別冊や、新たな学習事項と既習事項とのつながり、共通点や違いを掲載するなど、主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。</u> ○ 重量が生徒の負担にならないように分冊にしたり、全ての生徒が学習しやすいよう、ユニバーサルデザインにしたりするとともに、1人1人台端末を活用した学習活動として、「リンクマーク」（QRコード）を掲載するなど、使用上の便宜が図られている。
その他				<ul style="list-style-type: none"> ○ 北海道の素材を第1学年7箇所で取り扱っている。 ○ 学習者用デジタル教科書の発行が予定されている。 ○ 発展的な学習内容を第3学年で24ページ、第1学年で17ページ取り扱っている。

別紙様式1

番号 観点	発行者の番号・略称 116・日文	使用学年 第1学年 第2学年 第3学年	教科書の記号・番号 数学・708 数学・808 数学・908	教科書名
				中学数学1 中学数学2 中学数学3
取扱内容				<ul style="list-style-type: none"> ○ 数と式については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 <ul style="list-style-type: none"> ・二つの数量を x、y として 3 点と 1 点のカードの枚数を求める方程式を一元一次方程式に帰着させて考える学習活動（第2学年）、周の長さが 20 cm の長方形の辺の長さと面積の関係を表した方程式にいろいろな数を代入して調べる学習活動（第3学年）など ○ 図形については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 <ul style="list-style-type: none"> ・日本の伝統的な模様「麻の葉」を観察し、合同な図形を重ねる動かし方を考える学習活動（第1学年）、2段重ねの箱の取り付け方から四角形などの基本的な平面図形の性質を見いだす学習活動（第2学年）など ○ 関数については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 <ul style="list-style-type: none"> ・正方形の 1 辺の長さと周の長さの変化などの伴って変わる二つの量の関係を、比例、反比例を用いて具体的な事象を捉える学習活動（第1学年）、水が入っているプールに水を入れ始めてからの時間と水面の高さの関係を、一次関数として捉える二つの数量の変化や対応の特徴を見いだす学習活動（第2学年）など ○ 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、次のような学習活動が取り上げられている。 <ul style="list-style-type: none"> ・<u>くじの当たりやすさの学習において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、くじを引く順番と当たりやすさについて考え、樹形図等を使った解き方について話し合い、考えを広げたり深めたりする学習活動（第2学年）など</u>
内容の構成・排列 分量等				<ul style="list-style-type: none"> ○ 内容の構成・排列については、次のような工夫がなされている。 <ul style="list-style-type: none"> ・図形の様々な移動に着目し、二つの図形の関係について理解する学習の後に、基本的な作図の方法を考察し表現する問題を扱うなど、系統的・発展的に学習できるような工夫（第1学年） ・乗法公式を使って平方根を含む式を計算する学習の後に、因数分解の考え方を基にして、二次方程式を解く方法を考察し表現する問題を扱うなど、系統的・発展的に学習できるような工夫（第3学年） ○ 内容の分量については、次のようになっている。 <ul style="list-style-type: none"> ・第1学年 総ページ数 308 ページ、前回より約 6 % 増
使用上の配慮等				<ul style="list-style-type: none"> ○ 「暮らしと数学」や「数学研究室」で、数学的活動の楽しさを実感できる課題学習などを取り上げたり、問題の条件の一部を変えて新しい問題をつくる数学的活動の場面を設けたりするなど、生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。 ○ <u>巻頭に「数学的な見方・考え方を身につけよう！」や、巻末に自分の考えを書き、互いの考えを伝え合うための「対話シート」を掲載するなど、主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。</u> ○ 誤答の多い箇所への注意喚起などをして、全ての生徒が学習しやすいよう、ユニバーサルデザインにしたりするとともに、1人1台端末を活用した学習活動として、「WEBマーク」（QRコード）を掲載するなど、使用上の便宜が図られている。
その他				<ul style="list-style-type: none"> ○ 北海道の素材を第2学年1箇所で取り扱っている。 ○ 学習者用デジタル教科書の発行が予定されている。 ○ 発展的な学習内容を第3学年で9ページ、第1学年で4ページ取り扱っている。